



東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃんNews



令和8年2月16日発行 第12号
多摩市聖ヶ丘1-17-1
電話 042-374-8111
発行者 校長 西田 良児

今年度のまとめと令和8年度へ向けて

副校長 古山 尚秀

「春の海 ひねもすのたり のたりかな」 俳人・与謝 蕪村（よさ ぶそん）

今年の節分は2月3日でした。無病息災を願う日本の伝統行事である豆まき。各御家庭でも鬼に見立てた病気や災害を追い払えたでしょうか。それとも恵方巻をまるかぶりして福を呼んだでしょうか。続く4日は立春。暦の上では既に春。梅の花も見頃を迎えています。感覚的にはまだまだ冬の寒さです。しかし、元気いっぱいの多摩桜生たちは、寒さに負けることなく学校生活を送っています。3学期も残す登校日数あとわずか。高等部3年生は卒業後の社会生活に向けて、他の学年の児童・生徒は進学や進級に向けて、学習のまとめと新年度に向けた準備に一生懸命取り組んでいます。

【備えあれば憂いなし！災害対策は大丈夫ですか？】

今年も各地から地震のニュースが聞こえてきます。1年前は、南海トラフ地震が大きな話題となっていました。気象庁からは「引き続き、南海トラフ巨大地震が起きる可能性は非常に高い確率となっている。この機会に避難経路の確認や家具の固定など、日頃の備えを強化することが大切。」との声明が出されています。体感しないとついつい忘れがちになってしまいますが、日本は有数の地震大国です。本校でも定期的な実践的な避難訓練を行っていますが、「一層備えておかなければ！」との思いを強くしています。各御家庭でも、改めて御家庭内の家具類の固定や災害用備蓄物品の有無、御家族の連絡方法（災害伝言ダイヤルの活用など）や集合場所、指定避難場所などについて話題にいただければと思います。

【ハンドサッカー、御存じですか？】

車いすバスケットボールや車いすラグビーなどの競技はパラリンピック種目であり、観戦されたこともあるかと思います。車いすバスケットボールを題材にした漫画作品もありますね。しかし、これらの競技は重度の障害がある児童・生徒が参加するのは難しい種目です。そこで、都立肢体不自由養護学校の保健体育科の教員が、「障害がどんなに重度でも、児童・生徒が皆で参加できる種目をつくろう！」と試行錯誤の結果生まれたのがハンドサッカーです。平成元年には、肢体不自由養護学校2校だけの参加でしたが第1回交流大会を開催。今現在は、東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟が2月中旬に主催する大会は、都内肢体不自由特別支援学校全18校が参加する大規模大会となっています。日本ハンドサッカー協会も設立され、平成25年の東京国体ではオープン競技として採用されました。茨城県でも大会が開かれるなど全国にハンドサッカーの輪が広がっています。本校I部門の体育でも取り組んでおり、児童・生徒が楽しみにしている授業の一つです。昨年11月からパラスポーツ部でもハンドサッカー開始。先輩が後輩に戦術や技術を伝えチームとして成長していく様子や、重度の障害がある子たちが挑戦する課題の創意工夫の面白さと緊張感などを間近で見られるのは教育者冥利につきます。

さて、今年のハンドサッカー大会は2月14日（土）、駒澤オリンピック公園総合運動場体育館を会場に開催されました。練習を重ねて臨んだ多摩ブロッサムズの活躍の結果やいかに？！ぜひ参加した児童・生徒らに聞いてみてください。なお、YouTubeでもハンドサッカーの紹介がされていますので、一度ご覧になってみてください。そして来年の2月は大会会場に足を運んでみてください。ハンドサッカーの魅力に夢中になること間違いなし！です。